

仙台港開港50周年 東北の流通拠点港湾として機能充実へ



佐藤 達也
宮城県
土木部長に聞く

仙台港が開港から50周年を迎えました。

佐藤 仙台塩釜港仙台港区（通称：仙台港）は、1971年に第一船が入港して以来、2021年7月で開港50周年を迎えました。

開港前の宮城県は、工業生産基盤の立ち後れ等により、工業的發展契機を掴むことができない状況となっており、地域格差の是正、都市基盤整備の充実が課題となっておりました。このような中、仙台港は、1964年3月に当時の仙台湾臨海4市12町村が新産業都市「仙台湾地区」に指定されたことを受けて、臨海型工業の開発拠点と

仙台塩釜港仙台港区（仙台港）が開港50周年を迎えた。仙台港は1964年3月に新産業都市「仙台湾地区」の指定を受け、臨海型工業の開発拠点として、同年8月に港湾計画が策定された堀込港であり、67年12月から建設工事に着手。その後、流通港湾としての必要性が高まったため、69年3月の計画変更で商港機能を追加し、71年7月に開港した。地域の開発拠点、そしてまた東北地方における流通拠点港湾として大きな役割を果たしている仙台港について、佐藤達也宮城県土木部長にこれまでの歩みを振り返ってもらったとともに、今後の方向性などを伺った。

して港湾計画が策定され、67年12月から建設が開始されました。その後、69年3月の計画変更では、流通港湾としての必要性の高まりを踏まえて商港機能が追加され、71年7月に掘り込み型の湾港として開港の運びとなりました。

この後順調に港勢を拡大し、85年頃には計画目標の大半が達成されましたが、船舶の大型化やコンテナ化に代表される流通革命が急速に進行したことから、仙台港の更なる飛躍のため、外資コンテナ港湾として機能する「国際貿易港」構想を策定し、沖合展開を図ることとしました。いわゆる仙台港の第2期拡張計画であります。

この計画を受け、96年には高砂コンテナターミナルの本格運用が開始され、その後の国際コンテナ定期航路の開港などにより順調に港勢を拡大してまいりました。また、2013年までに、東北

に進出する自動車関連産業に対応したモータープールや岸壁の整備を行い、東北地方における完成自動車の一大輸送拠点を形成するなど東北唯一の国際拠点港湾である仙台塩釜港、中でも仙台港は、東北経済を牽引する中心的役割を担っております。仙台港の発展は、官民を挙げた連携の賜であり、発展を支えた港湾関係者の御尽力に対し、深く感謝いたします。

この間、2011年3月11日には東日本大震災が発生し、仙台港も甚大な被害を受けましたが、関係者の御尽力により取扱貨物量は順調に回復し、震災から10年が経過した現在では、震災前を上回るまでになっております。震災当時、多くの皆様から暖かい御支援をいただいたことに、改めて深く感謝いたします。

現在、どのような事業に取り組んでいますか。

佐藤 高砂コンテナターミナルでは、コンテナ貨物の取扱量増加に伴う混雑の解消と、将来の貨物量増加を見据え、ターミナル用地を6ha拡張しました。更に、寄港便数の増加や船舶の大型化に対応するため、3号岸壁の整備とその背後地となる4haの埠頭用地拡張工事にも着手し、24年度からの供用を目指しております。



高砂コンテナターミナル供用開始(1996年)

今後の事業を進めるに当たっては何を大切にしていきたいですか。

佐藤 港はハードウェアの整備で終わるものではなく、御利用いただいて初めて、価値が生まれると考えております。引き続き、「使い勝手のよい港」を目指して、港湾機能の強化に努めるほか、輸出貨物の掘り起こしや他港と連携した航路誘致など、集貨・創貨の

取り組みを進め、港湾の利用拡大に努めてまいります。

今後、その先の100周年に向けて何か抱負はありますか。

佐藤 港は有史以来、物流の要であり、人の営みとともに発展を続けてきました。今日、経済のグローバル化やIoTに代表される科学技術の進歩がめざましい発展を遂げ、我々を取り巻く環境は常に変化しています。近年、持続可能な社会・都市の実現に向けて、環境負荷の少ない船舶による海上輸送が見直されているところでありますが、今後も時代の変化に適切に対応し、発展し続けられる港でありたいと考えております。

また、仙台港は、18年には国土交通省から「みなとオアシス仙台港」とし



着工前の仙台港



現在の仙台港

て認定され、「使い勝手のよい港」という物流面の役割のみならず、人々が憩い、集い、潤える空間としての役割も求められており、地域の団体・企業などと連携して、多くの人に親しまれる港づくりに取り組んでおります。今後は、このような役割もしっかりと果たしていきたいと考えております。

その他 読者に伝えたいことはありますか。

佐藤 これを契機としてより一層飛躍していけるよう、これからも関係者の皆様と一丸となって、仙台港の利用促進と賑わいの創出に取り組んでまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

埠頭用地拡張は24年度供用へ

仙台港のさらなる成長・発展に尽力いたします

未来の港湾・海岸空間を創造する

ポートコンサルタント株式会社

代表取締役社長 足立 元良

〒113-0021 東京都文京区本駒込5-4-7
TEL.03(5978)3377(代) FAX.03(5978)3380
営業所：秋田・金沢・三重・沖縄

私たちの今が、社会の未来を創る

東亜建設工業

執行役員東北支店長 後藤 良平

〒980-0021 仙台市青葉区中央2丁目8-13
TEL.022(262)6511(代)

夢から感動へーハートテクノロジー

東洋建設株式会社

東北支店

執行役員支店長 館下 章

仙台市青葉区中央二丁目9-27(プライムスクエア広瀬通7階)
TEL.022(222)2281(代)

株式会社 不動テトラ

東北支店

執行役員支店長 青野 丈児

〒980-0803 仙台市青葉区国分町1丁目6-9
TEL.022(262)3411 FAX.022(262)3416

地域ビルダーとして社会に貢献する

赤坂建設株式会社

代表取締役 佐藤 渉

仙台市泉区上谷川字赤坂9-2
TEL.022(372)5111(代) FAX.022(372)3501

熱海建設

代表取締役 千葉 嘉春

仙台市青葉区錦町1丁目1-31 TEL.022(263)1671(代)

暮らしと生活の創造

後藤工業株式会社

代表取締役 後藤 栄一

本社／仙台市宮城野区扇町4-6-4
TEL.022(284)9069(代) FAX.022(284)9317

夢、かぎりなく。

株式会社 橋本店

代表取締役社長 佐々木 宏明

本社 仙台市青葉区立町27番21号 ☎022-714-7020

確かな技術で地域の幹となり夢を支える

株式会社 三電

代表取締役社長 千葉 ミオ

本社・〒984-0042 仙台市若林区大和町五丁目30番22号
TEL(022)284-8823(代) FAX(022)284-8831

港湾土木資材・工業用品・水産漁業資材

株式会社 三亥

本社／宮城県塩釜市港町二丁目12番3号
TEL.022(364)2135

国土交通省認定
膨張式救命いかだ整備事業所
GMDSS救命設備サービスステーション